

中央図書館 日曜開館スタート

市文化センターの中央図書館時代は、図書館サービスの拡大期となりました。

現在では、利用したいときにいつでも開館している図書館ですが、日曜日も開館するようになったのは、昭和 56 (1981) 年 1 月 11 日からで、中央図書館に限定しての実施でした。

中央図書館が開館して間もない頃から、日曜開館を要望する声がありました。当時の『いわき民報』(昭和 54 年 12 月 28 日付) には、いわき市社会教育委員の会議で、日曜開館と開館時間の延長、四倉・久之浜地区への図書館新設などを教育委員会に対し要望したことを報じる記事が見られます。

しかし、日曜開館については、職員配置の問題や、司書の専門職としてのスキル向上の必要があり、先延ばしになっていました。

そんな折、昭和 55 (1980) 年のいわき市議会 6 月定例会において、当時の松本久教育長が、市立図書館 5 館の日曜開館年内実施の方針を明らかにしました。また、同年 7 月 1 日、市は行政機構改革を行い、図書館も日曜開館を想定して職員の増員が図られました。

日曜開館問題に最終的な結論が出たのは、同年のいわき市議会 12 月定例会です。「来年 (昭和 56 年) 1 月から中央図書館の日曜開館を実施することに決定した」と当時の田畑金光市長が答弁したことで、中央図書館に限定して日曜開館を実施することが明らかになりました。

小名浜、勿来、常磐、内郷の地区図書館 (四倉図書館はこの時は未設置) に関しては、「職員数、施設改善問題などからみて現状では無理」としました。地区図書館が日曜開館を開始したのは、12 年後の平成 5 (1993) 年 3 月 1 日のことでした。

市民の念願だった日曜開館の初日は、多くの利用者が詰めかけました。当時の記録によれば、来館者

は 1,141 人、貸出冊数は 1,231 冊と、開館以来最高を記録。勤め人や親子連れなど、平日は利用できない人たちが多く訪れ、熱心に本を選ぶ姿が新聞で報じられました。



『いわき民報』(昭和 56 年 1 月 12 日付)



『いわき民報』(昭和 56 年 1 月 29 日付)